

# 次世代産業人材育成事業 ～農林水産教育の推進～

## 背景

- 安全・安心な食料の持続的な生産に関する学習と先端技術に対応した学習の必要性が高まっている。
- 市場動向の分析や新たな顧客を創出する柔軟な経営マインドを醸成する学習の充実が求められている。
- 新規就業希望者の確保・育成に対するニーズは依然として高い。

## <これまでの成果>

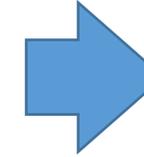
- デザインシンキングや先端技術活用による農業に対する興味関心の高まり  
⇒農業系9校全体37.0%、マスター・ハイスクール指定校63.0%
- 先進的農業者からの学び等により高卒新規就農者数が増加  
⇒R2:9名 R3:8名 R4:21名 R5:17名 R6:12名

## <課題>

- 先端技術等を導入した学習の水平展開  
(年次進行で各校において実践)
- 就農希望者の安定的な輩出
- 経営に関する学習が不足傾向

## <今後の具体的取組>

- 外部講師活用の工夫
- 農林水産部等との連携推進
- 先端技術の習得
- 生産現場での体験・見学
- 地域産業との連携



## 目的 時代のニーズに対応した地域の農林水産業を担う人材の育成

### 取組① 専門的な知識と技術を高める取組

#### ○産業界や専門機関と連携した技術研修

- 外部講師や先進地見学等による実践力の習得
  - ・安全かつ効率的な食料生産  
⇒GAPやHACCP手法の学習と実践
  - ・持続可能な林業・水産業に関する研修(日田林工、海洋科学)
    - <林業> ⇒林業界協力によるスマート林業の実践等  
⇒林業研修所等での技術研修
    - <水産> ⇒【食品分野】海洋資源調査、未利用資源の活用  
⇒【航海・機関分野】船舶ドック整備の現場見学
- 農林水産部(農業大学校)等と連携した専門技術の学び
  - ・スマート農業関連機械等の実技体験等

#### ○先端技術に関する学習(マスター・ハイスクール成果の水平展開)

- 外部講師による実践研修と教員の指導スキル習得
  - ◇データ分析演習
    - ・作物生育データの収集・活用による生産の効率化・高品質化
  - ◇AIディープ・ラーニングによる果実の等級判定
    - ・イチゴ生産における省力化と判定基準の統一
    - 《事例①》イチゴ「ベリーツ」の等級判定マシーン開発  
→作業時間短縮、確実な等級判定による増収実現
    - 《事例②》花卉生産における価値評価の基準化



### 取組② 農林水産業の担い手を確保する取組

#### ○くじゅうアグリ創生塾における農業人材の育成

- 多様な講師による技術者・経営者を育成する研修の実施

担い手育成	・若手農業者に農業の魅力を学ぶ(星空アグリ討論会等) ・大学校、4年制大学等への進路対応(農業系進学研修) ・普通科高校生や小・中学生向け研修(アグリキャンプ等)
経営学習	・ブランド化等の経営戦略を学ぶ(No1から学ぶ等) ・農産物の輸出入・流通、マーケティング(海外研修)
(先端技術)	・農大等との連携による先端機器操作(農業技術研修) ・生産物に対する新たな価値の創造(6次産業化研修)

- 【R5年度の研修実績】
- 経営に関する研修や知識・技術の向上研修など年間14講座を実施
  - 先進経営者等による研修受講者延べ526名

#### ○農林水産部・振興局等との連携による一次分野の就業促進

- ・地域の農業法人等の現場見学
- ・学校単位での法人説明会
- ・高校生向け農林水産系合同会社相談会

### 取組③ 地域に根ざした深い学びの実践

#### ○地域の生産者等と連携した課題研究

- ・生産現場の課題の掘り起こし  
⇒地域の生産法人や農家等を訪問し課題を発見
- ・課題解決につながる技術や商品の開発研究及び地域への研究成果還元  
⇒学校ごとの成果を地域等に公開

## <期待される効果>

- 専門分野の知識・技術と経営的視点を身に付けた産業人材の育成
- 探究的な学びの充実による産業の魅力への理解
- 一次分野・関連産業の担い手の増加